

為替週間展望 = ドル円は高値圏でもみ合いながら上値を追う展開か

[5月9日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月2日～5月6日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	129.61	130.81(6)	128.63(4)	130.45	+0.75
ユーロ・ドル	1.0552	1.0642(5)	1.0483(6)	1.0492	-0.0053

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,003.56	+155.66	日本10年債利回り	0.245	+0.015
ダウ平均株価	32,997.97	+20.76	米10年債利回り	3.037	+0.103

=====

<来週の主要経済統計等>

- 9日 中国4月貿易収支
- 10日 独5月ZEW景況感指数
- 11日 中国4月消費者物価指数、中国4月生産者物価指数
 - 日本3月景気動向指数速報値
 - 独4月消費者物価指数確報値
 - 米4月消費者物価指数
 - 米4月財政収支
- 12日 日本3月経常収支
 - 英第1四半期国内総生産(GDP)速報値
 - 英3月鉱工業生産指数、英3月製造業生産指数、英3月貿易収支
 - 米4月生産者物価指数
 - 米新規失業保険申請件数
- 13日 ユーロ圏3月鉱工業生産指数
 - 米4月輸入価格指数
 - 米5月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】FRBによる金融引き締めスタンスに変化はなく、日銀の緩和姿勢も継続するという中で、ドル円は底堅い動きを見せることとなろう。そうした中、ドル円は高値圏でもみ合いながら130円台を固めて一段高になるとした。

【FOMCでは予想通り0.50%の利上げ】

米連邦準備制度理事会(FRB)は3～4日に開催した米連邦公開市場委員会(FOMC)で0.50%の利上げを決定した。また、6月1日よりバランスシートの縮小にも着手する。バランスシート縮小については、6月から月475億ドルで開始し、縮小ペースは3カ月後に最大で月950億ドルまで拡大するとしている。950億ドルの内訳は、米国債が600億ドル、MBSが350億ドルとなる。

また、FOMC声明では、「雇用の増加はここ数か月は堅調で失業率は大幅に低下している」、「インフレは需給不均衡を反映して高進している」「インフレリスクを極めて注意深く見守っている」、「ロシアのウクライナ侵攻は非常に不確実な意味を持つ」、「中国のロックダウンはサプライチェーン問題を悪化させる可能性がある」といった点が示された。

パウエル議長の記者会見では、「0.75%の利上げは積極的に検討していない。次の数回の会合で0.50%の追加利上げを検討すべき」と述べたことで、一気にドル売りの動きに傾いた。ドル円は130円近辺から128.60台まで一気のドル売り円高

が進んだ。ただ、売り一巡後は再び上昇に転じている。

次の注目材料は5月11日に発表される4月の米消費者物価指数となる。前回4月12日に発表された3月の米消費者物価指数は前年比+8.5%となり、約40年ぶりの高い伸びとなった。変動が大きい食品とエネルギーを除いたコア指数は+6.5%となった。

今回の事前予想では、前年比+8.1%、コアの前年比+6.1%となっており、前回に比べて低下する見通し。予想を下回るようだと、インフレ圧力がピークアウトしたとの見方が広がる可能性はあるものの、水準そのものはかなり高いことから、ドルの堅調な流れは続くと思われる。予想から上振れした場合は、ドル買いとなりそうだ。

F R Bによる0.75%の利上げの可能性は低下したとみられるが、金融引き締めスタンスに変化はない。米長期金利は高止まりしており、米10年債利回りは5日に一時3.10%台まで上昇を見せた。こうした中、今後もドルは底堅い動きを続けるとみられる。

一方で、日銀の緩和姿勢も継続するというので、ドル円は底堅い動きを見せることとなりそうだ。ドル円はテクニカル面での過熱感の高まりや株安によるリスク回避の円買いの動きなどは警戒される。こうした中、ドル円は高値圏でもみ合いながら上値を迫る展開を見せるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、128.00~132.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、11日に日本3月景気動向指数速報値、米4月消費者物価指数、米4月財政収支、12日に日本3月経常収支、米4月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、13日に米4月輸入価格指数、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは下向きの流れが継続か】

ユーロドルは1.0500近辺でもみ合いが継続していたものの、F O M C後のパウエル基調の記者会見を受けてのドル売りの動きから、1.06台半ばまで上昇した。ただ、これは下げが続いてきた市場にパウエル議長の記者会見が買い戻しの材料につながったという側面が強い。買い一巡後は再び下げに転じている。

欧州ではロシアによるウクライナ侵攻への影響で、天然ガス供給というエネルギーの安全保障が脅かされている。大きく下げてきた反動による上昇の動きは限定的となり、ユーロドルは再び下値を探る展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0300~1.0700ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、9日に中国4月貿易収支、10日に独5月Z E W景況感指数、11日に中国4月消費者物価指数、中国4月生産者物価指数、独4月消費者物価指数確報値、12日に英第1四半期国内総生産（G D P）速報値、英3月鉱工業生産指数、英3月製造業生産指数、英3月貿易収支、13日にユーロ圏3月鉱工業生産指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用にお客様は、私的・非営利目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社および他の著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信

ナリケツの合衆は、私的又は公的複製、コピリ守有TF作広上認認ツリしている範囲内では、三社のみしてナリ世有TF作自訂認体、ナリケツ有TF物も認未、ムネム信、
営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。